

第20回平和祈念展示資料館の運営に関するアドバイザリーボード 議事要旨

1 日 時：平成28年6月14日（火）14：00～16：00

2 場 所：総務省8階第4特別会議室
千代田区霞が関2-1-2 中央合同庁舎第2号館

3 出席者：（委員）

- ◎ 亀井 昭宏（早稲田大学名誉教授）
- 黒沢 文貴（東京女子大学現代教養学部教授）
- 兼川 真紀（弁護士）
- 斎藤 靖二（神奈川県立生命の星・地球博物館名誉館長）
- 名越 健郎（拓殖大学海外事情研究所教授）

[敬称略、◎は座長、○は座長代理]

（総務省）

佐伯 修司 官房審議官
河合 暁 管理室長
細田 恵三 企画官

4 議事次第

- （1）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」の説明
- （2）「平成28年度平和祈念展示資料館 運営委託業務のポイント」の説明
- （3）「平成28年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」の説明

5 議事要旨

- （1）「平成27年度平和祈念展示資料館 運営業務実施報告書」の説明
委託業者から説明後、意見交換が行われた。
- （2）「平成28年度平和祈念展示資料館 運営委託業務のポイント」の説明
資料2に基づき、事務局から説明が行われた。
- （3）「平成28年度平和祈念展示資料館 運営業務実施計画」の説明
委託業者から説明後、意見交換が行われた。

委員の主な発言等は以下のとおり。

- 館内企画展の際に実施しているギャラリートークについて、広報を工夫することにより、参加者を増やすことができるのではないか。

- 音声ガイドが導入され、コンテンツを選んで聞けるということはよいことだ。さらに、新しいコンテンツを増やして行ってもらいたい。
- 語り部の証言を映像化するにあたり、先を見据えて最先端のレベルで記録することを検討いただきたい。
- 地方巡回展においても、館内イベントや子ども霞が関見学デーなどで培ったノウハウを生かし、子ども連れで見学できるような工夫をすると、来場者も増えるのではないか。
- この規模で随分いろいろな行事を行っている。大変だと思うが、頑張っていたきたい。
- ホームページについて、英語版だけでなく、他の言語への対応も検討いただきたい。
- 全国紙が出している小学生新聞や学校向けの教育誌などに広告を載せるのもよいのではないか。
- 広報展開の中で、新宿区など近隣の区の教育委員会や地方巡回展の開催地域の学校にアプローチをすることはよいことだ。
- 平和祈念展示資料館は、中学生や高校生に一度は見て考えてほしい、大切な展示である。修学旅行などの誘致を積極的に行っていくとよいだろう。
- 最近、博物館・美術館回りが好きな層が厚くなっているので、そのような人たちに向けた広報を行うなど、手広くやるとよいのではないか。